

親子向けフィールドセミナー「地球教室」: その3 長良川の源流から河口まで

Earth School: Field Seminar for Parents and Children; 3. All Along the River Nagara-gawa

西本 昌司 [1]; 中村 壽男 [1]; 吉田 英一 [2]; 桂田 祐介 [2]; 東田 和弘 [3]; 亀高 正男 [4]; 毛利 勝廣 [1]; 足立 守 [5]

Shoji Nishimoto[1]; Hisao Nakamura[1]; Hidekazu Yoshida[2]; Yusuke Katsurada[2]; Kazuhiro Tsukada[3]; Masao Kametaka[4]; Katsuhiko Mouri[1]; Mamoru Adachi[5]

[1] 名古屋市科学館; [2] 名大博物館; [3] 名大・博物館; [4] 名古屋大学博物館; [5] 名大・博物館

[1] Nagoya City Science Museum; [2] NUM; [3] Nagoya Univ. Museum; [4] Nagoya Univ. Museum; [5] Nagoya University, University Museum

名古屋大学博物館と名古屋市科学館は、親子向けのフィールドセミナー「地球教室」を連携しておこなっている。この事業は、科学技術振興機構の研究者情報発信活動推進モデル事業の一環としておこなわれており、大学と地域博物館の連携の実験例としても注目される。2006年度には一般向け8回、科学館関係者向け1回の計9回のイベントを実施した。一般向けの8回のうち2度実施した宿泊付きのイベントでは、一泊二日の日中の大半を現地での学習にあて、学習会に相当する内容を移動車内や宿泊地でおこなうという形態をとった。ここでは10月21日(土)および22日(日)の2日間の日程で実施した「第5回地球教室 庄川上流と長良川全域の石」の概要を報告する。

応募者は定員30名に対し22名(9組)だったが、キャンセルがあり最終的な参加者は14名(6組)となった。スタッフは名古屋大学博物館と名古屋市科学館の職員6名と臨時雇用2名の8名で指導と安全管理を担当した。また、当日は行楽客による混雑が予想されたため、バスに先駆けて1名が混雑状況の確認にあたったが、大きな遅れにつながることはなかった。

学習内容は日本海側の富山湾に向かって流れる庄川の上流部分と、太平洋側の伊勢湾に流れる長良川の源流部分から上・中流を経て河口堰までの観察で、河川と景観の変化の様子、後背地の地質などを理解することを目的としている。この学習のため、庄川沿いに2カ所、長良川沿いに7カ所、両河川系の分水嶺に1カ所の合計10カ所の観察地点を設けた。各観察地点ではあらかじめ設定しておいた課題に家族単位で回答してもらった。10カ所の観察ポイントの場所と内容は以下のとおりで、1から5が1日目、6から10が2日目に訪れた地点である。宿泊には岐阜県郡上市八幡町の公共施設を利用し、ここで河原の石を利用した岩石についての学習会をおこなった。他の回同様、参加者全員に基本的な解説と地図などを載せたしおりを用意したが、今回は原寸の石ころ図鑑も別冊で用意した。

1. 御母衣湖ダムサイドパーク

白川村; 衛星写真での場所・地形確認、ダムのロック材の岩石の観察

2. 庄川上流の河原

白川村; 1で観察したロック材と同じ岩石を見つける、気に入った石に名前を付ける

3. 分水嶺公園

郡上市高鷲町; 流域についての学習、分水嶺公園が本当に分水嶺かを考える

4. 長良川源流夫婦滝

郡上市高鷲町; 石と川の観察、橋をわたって川幅を歩測する

5. 長良川上流の河原

郡上市白鳥町; 石と川の観察、4になかった石をさがす

6. 長良川中流の河原

郡上市美並町; 石と川の観察、前日になかった石をさがし、石灰岩を覚える

7. 長良川中流の河原

美濃市; 石と川の観察、6で覚えた石灰岩をさがす

8. 長良川下流の河原

岐阜市; 石と川の観察、石灰岩をさがす

9. 木曾三川公園

海津市; 展望タワーからの川の観察と流域全体の復習

10. 長良川河口堰

桑名市; 長良川河口堰を歩いてわたって川幅を歩測し、源流と比較する

イベント実施後のアンケート調査から、いくつかのことがわかった。全体の感想では、「自然に関心を持つきっかけになった」「もっと勉強したい」「よく見ると石や植物は面白い」といった今後につながる回答の割合が、8回の一般向けのイベント中もっとも高いレベルであった。また、「自分で考えられるのが良い」「親子や家族で楽しめるのが良い」という項目も8回中最も回答率が高く、地球教室イベントの中では最も成功した例と言うことができる。参加動機についての質問では、他の回に比べて「地学・自然が好きだから」などの具体的な経験に基づく積極的な動機が多く、過去の回への参加者の割合も高かった。観察が中心の内容ながら好評だった背景には、潜在的に地球科学に対する関心の高い参加者が多かったことが大きな原因と考えられる。さらに、参加した子供の年齢構成も他の回に比べてやや高学年に偏って

いたことも成功の一因であると考えられる。泊まりがけのイベントであったことについては、キャンプ形式の第4回地球教室よりも「どちらでもよい」との回答が多かったが、再び宿泊を伴う地球教室があれば参加したいかどうかの問いには「いいえ」の回答はなかった。なお、今回は最も参加費が高額になったが、参加費が「高い」との回答は無く、「ふつつ」よりも「安い」が多かった。

長良川は河口堰以外にダムがなく、ほぼ連続的に礫と景観の変化が観察できる好条件にある。また、流域の地質も上流に火山岩、中流に堆積岩というわかりやすい分布があり、加えて日本海側の花崗岩をはじめに観察することで岩石について効果的に学習することができる。アンケート調査結果にみられる成功の背景には、対象地域の条件の良さも影響しているものと考えられる。